

平成29年度事業報告

概 要

平成29年度に公益社団法人として6年目を迎えた当センターは、国の補助対象団体としてAランクのセンターとしてスタートしました。

国の高齢者活用・現役世代雇用サポート事業（サポート事業）の補助が拡充されたことを受けて、会員拡大とシルバー派遣事業拡大を重点課題として、通常の請負事業の維持・拡大による経営の安定化及び安全・適正就業の推進に取り組みました。

重点課題の会員拡大については、全戸配布の情報誌でのセンター事業の広報と会員募集、夏祭り市民総踊り100名参加での啓発活動、10月の「わくわくシルバークフェスタ」の開催、11月の炭鉱の祭典宮原坑フェスタ開催、会員特典のあるプラチナ倶楽部「得」本の2版を作成・配布、地域でのボランティア活動や入会の声かけを推進する全地域班会議の実施等に取り組みました。しかし、結果的に前年度末比でマイナス17人となり次年度に課題を残すこととなりました。

シルバー派遣事業拡大については、会員不足の状況がありましたが、さまざまな分野の事業所から派遣依頼の問い合わせがあり、新規派遣事業を確保することができました。

請負事業では、剪定、除草をはじめ、屋内外の作業は、猛暑で熱中症が心配されましたが、重篤な事故は無く、前年以上の事業実績を上げることができました。一方、世界遺産の来場者の減少で、ガイド業務や宮原坑ショップにはマイナスの影響が出ました。

このように、29年度は、さまざまな取組をした中で会員増対策の課題を残しましたが、会員各位及び役職員の受託事業への協力により、事業収入が前年実績を上回り、経営の安定化を推進することができました。

事業実績

一 雇用によらない臨時的かつ短期的な就業又はその他の軽易な業務に係る就業機会の確保・提供事業、社会参加のための支援（公益目的事業）

1 就業開拓提供等事業

（1）受託事業（一般）

高齢者の就業機会を確保し、高齢者の希望や能力に応じて、グループ就業やローテーション就業などを行い、高齢者に臨時的かつ短期的又は軽易な就業機会の提供を行いました。

	平成29年度実績	前年度比	実施計画
			達成率
会 員 数	607人	17人減	640人
			95%

就業実人員	551人	15人減	550人
			100%
就業延人員	79,184人日	8,385人減	83,000人日
			95%
就 業 率	90.8%	0.1ポイント増	90%
			101%
事業収入	312,058千円	15,608千円増	294,000千円
			106%

(主な就業分野)

- 事務（文書作成、受付事務、賞状・宛名書き等の筆耕等）
- 技能（剪定、大工、左官、襖・障子・網戸張替え、刃物砥ぎ等）
- 管理（小・中学校、地区公民館、駐輪場、イベント会場での駐車場整理等）
- 配布（市広報誌、チラシ・フリーペーパー配布等）
- 屋外・屋内作業（屋外・屋内清掃、除草、植木消毒、家財搬出、農作業等）
- 福祉・家事援助サービス（家事手伝い、育児支援等）

(2) 独自事業

地域のニーズに対応するために、独自の創意と工夫により次の事業を実施しました。

○ リサイクル事業

市民から提供された衣類、家具、家電製品、自転車等の再生・販売、また、学校給食や一般家庭の廃食用油を原料とした石けんの製造・販売を行いました。この事業により、ごみの減量化と資源の有効活用など市民の「3R活動」を推進しました。

○ 生きいきシルバー農園事業

耕作放棄地対策として、休耕地を活用した農産物の生産及び加工品製造、有料市民農園事業を行い、農産物や加工品は、農園直売所、センターのショップ、十日市、出張商店等で販売しました。

平成29年度	就業実人員	就業延人員	契約金額
計 画	30人	4,300人日	13,000千円
実 績	34人	4,692人日	11,591千円

(3) 高齢者就業活用事業

福岡県より、公共職業訓練リフォーム科の前期訓練を受託し、職業訓練を実施しました。後期の職業訓練受託については、応募者が少なかつたために不調となりました。

平成29年度	前期訓練生	後期訓練生	合計	契約金額
計 画	12人	12人	24人	7,200千円
実 績	10人 (修了生8人)	—	10人 (修了生8人)	3,398千円

二 雇用による臨時的かつ短期的な就業又はその他の軽易な業務に係る就業機会の確保・提供事業（公益目的事業）

1 職業紹介事業

地域の高齢者に、臨時的かつ短期的又はその他の軽易な業務の範囲における就業を紹介するとともに、公共職業訓練生の求職について、ハローワークと連携し求人情報等の提供を行いました。

2 労働者派遣事業

地域における人手不足と高齢者が求める就業形態の多様化に応えるため、臨時的かつ短期的又はその他の軽易な業務の範囲において、労働者派遣事業を推進しました。

平成29年度	就業実人員	就業延人員	契約金額
計 画	45人	3,500人日	10,000千円
実 績	43人	3,922人日	10,908千円

（主な就業分野）

高齢者施設等の配膳業務、送迎業務、食品製造業務、商品整理等

三 高齢者の就業機会の確保や社会参加活動を発展・拡充するための普及啓発、情報提供、研修・講習、相談・助言、調査研究等（公益目的事業）

1 普及啓発事業

（1）広報活動

- ① 月2回の入会説明会において高齢者の生きがい就労や社会参加活動を紹介するとともに、全戸配布の無料情報誌に、センター事業の紹介や会員募集の広告を掲載しました。
- ② 毎月10日の十日市や7月の夏祭り市民総踊り参加、年間を通し出張販売する「よかもん商店街」への参加、10月のセンターでの「わくわくシルバークフェスタ」開催等でセンター事業の普及啓発を行いました。
- ③ 地元新聞社へセンター事業の情報提供を行うとともに、10月に市行政及び市議会への支援要請行動、ホームページを活用した情報発信等を実施しました。

（2）社会参加・ボランティア活動

- ① 夏祭りの市民総踊り 7月22日（土）100人参加
- ② 夏祭り会場の清掃奉仕活動 7月24日（月）118人参加
- ③ 市役所剪定奉仕活動 10月7日（土）53人参加
- ④ 高齢者生きがい創造センターの剪定、除草奉仕活動
10月14日（土）114人参加
- ⑤ 世界遺産関連施設の旧三井港倶楽部の松の剪定奉仕活動
芽摘み 5月23日（火）46人参加、古葉落とし 12月5日（火）42人参加
- ⑥ 地域班による地域の清掃奉仕や地域活動への参加

2 安全・適正就業推進事業

(1) 安全就業の推進

「安全は全てに優先する」を励行するために、センターに安全第一の看板を掲げ、安全パトロールの実施、職群別定例会での安全周知、安全就業促進大会の開催、夏場には熱中症と疲労や睡眠不足による事故への注意喚起を行いました。

今年度の事故発生状況は、傷害事故が10件、賠償事故が6件発生しました。傷害事故では、蜂刺されが多発しました。それぞれの事故の内容は以下のとおりです。

【傷害事故】10件（前年比+1件）

日時	性別	年齢	事故	職種	発生状況・原因・対策
6/30 18:00	男	75	就業中 (ひじ骨折) 63日通院	広報 配布	徒歩で広報配布中、道路の段差につまずき転倒し、右ひじを強打した。
					(事故原因) 夕方薄暗かったため、段差に気づかなかった。
					(再発防止策) 慣れた道でも、薄暗くなったら懐中電灯で足元や周囲を照らすなどして注意を怠らない。
7/15 9:00	男	71	就業中 (蜂刺され) 4日通院	除草	刈払機で作業中、草むらから飛び出してきた蜂に刺された。
					(事故原因) 蜂に対する危険予知が十分でなかった。
					(再発防止策) 作業前に草むらの安全確認を十分に行う。また、蜂スプレーを常備し、いつでも使えるようにしておく。
7/19 14:45	女	66	就業中 (蜂刺され) 3日通院	除草	除草ゴミの寄せ方をしていたところ、草むらから飛び出してきた蜂に刺された。
					(事故原因) 蜂に対する危険予知が十分でなかった。
					(再発防止策) 作業前に草むらの安全確認を十分に行う。また、蜂スプレーを常備し、いつでも使えるようにしておく。
7/27 8:30	男	71	就業中 (咬傷) 3日通院	広報 配布	広報配布中、敷地内に入ったところ、犬が飛びかかってくるので右ひざを咬まれた。
					(事故原因) 犬のリードが郵便受けまで近づける長さで、犬に気付くのが遅れた。

					(再発防止策) 犬のいる家は、油断せず犬がどこにいるか確認し配布する。一方、市と協議し、配布の一時停止と、犬の咬みつき防止への協力を市広報誌に掲載してもらった。
7/29 14:00	男	83	就業中 (蜂刺され) 1日通院	除草	除草ゴミの寄せ方をしていたところ、草むらから飛び出してきた蜂に刺された。
					(事故原因) 蜂に対する危険予知が十分でなかった。
					(再発防止策) 作業前に草むらの安全確認を十分に行う。また、蜂スプレーを常備し、いつでも使えるようにしておく。
8/17 14:00	男	74	就業中 (蜂刺され) 2日通院	除草	除草ゴミの寄せ方をしていたところ、草むらから飛び出してきた蜂に刺された。
					(事故原因) 蜂に対する危険予知が十分でなかった。
					(再発防止策) 作業前に草むらの安全確認を十分に行う。また、蜂スプレーを常備し、いつでも使えるようにしておく。
8/25 9:00	男	76	就業中 (裂傷) 7日通院	除草	刈払機のスターターを強く引いたところ、背後にあったソーラーパネルの金属部分に手首が当たり、裂傷を負った。
					(事故原因) ソーラーパネルの間の狭い場所でのスターター操作で、動作範囲の安全確認が不十分であった。
					(再発防止策) 狭い場所で大きく体を動かす場合、必ず動作範囲の安全を確認する。
10/10 14:00	男	72	就業中 (蜂刺され) 2日通院	剪定	バリカンで作業中、植込みから蜂が出てきて刺された。
					(事故原因) 植込みの蜂に対する危険予知が十分でなかった。
					(再発防止策) 作業前に植込みの安全確認を十分に行う。また、蜂スプレーを常備し、いつでも使えるようにしておく。
10/17 16:15	男	75	就業途上 (捻挫)	広報配布	雨天の中、徒歩で広報配布中、舗装されていない下り坂でバランスを崩し転倒した。

			28 日入院		(事故原因) 雨で滑りやすい下り坂で、注意が十分でなかった。
					(再発防止策) 雨天時は、配布すべきかの判断を行う。配布する場合、暗く滑りやすいため、足元の安全確認を十分に行う。
3/30 15:00	男	76	就業中 (咬傷) 3 日間通院	広報 配布	広報配布中、室内犬が玄関の柵を飛び越え、飛びかかってきて咬まれた。
					(事故原因) 室内犬が玄関の柵を飛び越えてくることを予想しなかった。
					(再発防止策) 犬のいる家は、油断せず犬がどこにいるか、犬の吠えている状態などを確認し、危険と思われる場合は配布を見送り、センターに報告する。

【賠償事故】 6 件 (前年比± 0 件)

日時	性別	年齢	事故	職種	発生状況・原因・対策
5/29 10:30	男	70	就業中 車両ガラス 破損 (石飛事故)	除草	刈払機で作業中に石が飛び、駐車場にあった車両の窓ガラスを破損させた。
					(事故原因) 石飛防護ネットを使用して作業していたが、最後の仕上げでネットを使用しなかった。
					(再発防止策) 仕上げ作業をする際も、最後までネットを使用し、安全対策を怠らない。
8/10 11:30	男	69	就業中 車両ガラス 破損 (石飛事故)	除草	刈払機で作業中に石が飛び、敷地内に駐車していた車両の後部ガラスを破損させた。
					(事故原因) 小石が多い現場にもかかわらず、石飛防護ネットを使用せず作業していた。
					(再発防止策) 小石が多い現場では、石飛事故を予知し、手抜きをせずに、必ず石飛防護ネットを使用する。

9/8 14:00	男	72	就業中 施設の壁 破損	屋内 作業 (設営)	階段を使って長机を運んでいる途中に、バランスを崩し、長机が壁に衝突した。
					(事故原因) 長机がエレベーターに入らなかったため、階段を利用したが、足元の確認が不十分だった。
					(再発防止策) 階段を使用した荷物運搬は、安全を第一として、足元の注意を怠らない。
10/25 9:30	男	75	就業中 車庫屋根 自家用車 水道蛇口 破損	剪定	剪定作業中、車庫のスレート屋根に足をかけた際、屋根を突き破って落下し、自家用車、水道蛇口を破損させた。(本人の怪我は無し)
					(事故原因) 不注意で、スレート屋根に直接足をかけた。
					(再発防止策) スレート屋根はもろく危ないことをKYミーティングで周知する。屋根やブロック塀に直接足をかけない。
3/8 14:15	女	71	就業中 小便器 破損	屋内 清掃	保育園の男子トイレを清掃中、持っていた目皿を便器内に落とし、便器を破損させた。
					(事故原因) 目皿を手を持ったまま清掃をした。
					(再発防止策) 手に物を持ったまま作業しない。特に破損しやすい物を取り扱う場合は、細心の注意を払う。
3/17 10:00	男	72	就業中 瓦 破損	剪定	剪定作業中、剪定枝が隣家の屋根に落ち、隣家の瓦を破損させた。
					(事故原因) 隣家には落ちないと判断を誤り、枝にロープをかけずに剪定した。
					(再発防止策) 切り落とす枝にロープをかけ、予期しない場所に枝が落下しないように十分に注意し切断する。

(2) 適正就業の推進

会員の適正就業を図るために、就業不適格会員に対する措置について、職群班の定例会での周知や問題行動の会員への注意・指導を行うとともに、シルバー人材センターの働き方である臨時的、短期的、または軽易な就業のために、ローテーション就業および長期就業の是正に取り組みました。また、発注者との契約については、請負の

仕事か、指揮・命令が発生する派遣事業かの確認を行いました。

(3) センター安全就業促進大会

平成29年度安全就業促進大会を、3月14日(水)に大牟田文化会館で実施しました。当センターでの事故発生状況と原因分析、安全標語の表彰、大牟田労働基準監督署による「安全に就業するために」及び大牟田市立病院による「高齢者の転倒事故防止について」の講演を行いました。(会員183人参加)

3 相談事業

(1) 就業相談の実施

就業を希望する地域の高齢者を対象に、毎月2回の入会説明会と毎月1回の登録説明会を実施しました。また、福岡県から受託している公共職業訓練リフォーム科の訓練生への就職相談に対応しました。

4 研修・講習事業

① 安心・安全講習

安心して生活するために、多発しているニセ電話詐欺の防止について、職群定例会での啓発やセンターでのチラシ掲示等を行うとともに、安全に就業するために、安全就業促進大会で大牟田労働基準監督署による講演を行いました。

② 健康管理講習

夏場の熱中症対策について、職群定例会での啓発やチラシ掲示を行うとともに、高齢者に多い転倒事故の防止について、安全就業促進大会で講演を行いました。

③ 接遇講習

利用者の信頼と満足を得るために、会員へクレームに対する注意及び接遇の指導を行いました。

④ 剪定講習

○新入会員を対象に、服装、道具、安全対策等についての座学研修を実施しました。(開催5回、研修会員5人)

○松の剪定について、旧三井港倶楽部で5月に春の芽摘み、12月に古葉落とし講習を実施しました。(延72人参加)

⑤ 除草講習会

○新入会員を対象に、服装、道具、安全対策等について、座学及び実技講習を実施しました。(開催13回、研修会員13人)

○刈払機を使用する会員を対象にした県連合会主催の刈払機の正しい扱い方、安全対策等についての技能講習会を11名が受講しました。

⑥ 子育て・福祉・家事援助講習会

県連合会主催の会員研修会が、2月16日(金)に福岡市で開催され、会員5人と職員1人が参加しました。

⑦ 職員研修会

○筑後ブロック会計担当職員研修会が、2月8日（木）に大牟田市シルバー人材センターで開催され、県連合会の講師による研修会に職員3人が参加し、他センターとの意見交換を行いました。

○筑後ブロック業務担当職員研修会が、2月23日（金）に大川市シルバー人材センターで開催され、県連合会の講師による研修会に職員2人が参加し、他センターとの意見交換を行いました。

⑧ 世界遺産ガイド業務会員研修

1月29日（月）に熊本県宇城市で開催された「明治日本の産業革命遺産」人材育成研修会に、世界遺産のガイド業務会員10人が参加しました。

5 調査研究事業

公益社団法人として会員増対策と経営の安定化を進めるために、福岡県シルバー人材センター連合会及び筑後ブロック各センター並びに先進地等の情報収集を行いました。

○福岡県連合会主催の全体事務局長会議及び担当者会議での情報収集

○筑後ブロック会計担当職員研修会及び業務担当職員研修会での情報収集

○先進地シルバー人材センターの情報収集